

<今朝の聖書から>

村上定幸

【塞翁（さいおう）が馬】昔の中国・前漢時代の話です。北方の砦の町に住んでいた、塞翁の立派な馬が逃げ出しました。周囲が慰めると“幸いに結びつくかも”と塞翁は答えました。しばらくして馬は立派な馬を従えて帰って来たので周囲は“何と幸いなことか”とほめたが、塞翁は“災いに結びつくかも”と言いました。彼の息子が“落馬による骨折”をしました。“どんな幸いがあるかも”というのが塞翁の返事でした。おかげで彼の息子は、戦争になった時に兵役を免れ死なずに済んだという喩です。“一寸先は闇”とか“ケセラセラ”という言葉に通じるものがあるかもしれません。

【空】コヘレトの主要なテーマの一つが“空(聖書の言葉ではハベル、またはアベル=カインに殺されたアベルですが)”でしょう。“空の空”などといわれると、東洋的に、あるいは仏教的に読んでしまう時がありそうです。“伝道者は言う、「空の空、いっさいは空である」と(コヘレト 12:8)”とあります。空とはむなし、い何もないことと呼んでも通じます。更にこれを人生と重ねてみますと。しょせん生きたとしても、七十年か八十年、たいしたものではないということになります。“人生の年月は七十年程のものです。健やかな人が八十年を数えても、得るところは労苦と災いにすぎません(詩編 90:9)”という言葉も仏教的な達観の世界に引き込んでしまうこととなります。この書は主にある生き方をこの空と反対のものであることを真っ向から捕らえるのです。

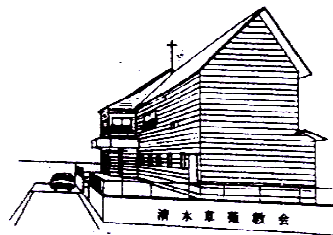
【肯定か否定か】問題はこの空を肯定するか否定するかということでしょう。しょせん空なのだから、その空の中に身をゆだねて、諦めの中に平安を得るのか、この空は神との関係を一切持たないものだとか考えるかということ。空は闇です。滅びの世界を示します。“光は快く、太陽を見るのは楽しい”と生きることをコヘレトは讃美します。“若者よ、お前の若さを喜ぶがよい”と讃歌がうたわれます。これは空の反対です、更に 12:1 にある“青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ”という言葉が重ねられます。主がその豊かさを若さの中にあらわされるのです。明らかに虚無の否定になります。主にあって豊かだからこそ楽しみなのです。

【滅びもまた】滅びもまた、若者を誘惑します。この世を楽しめ、人の生涯だ、小さな満足を持って終えよというのです。決して自分のパンを粗末にするな、それこそお前の豊かさなのだとか滅びは囁くのです。このパンというのは、主の祈りで祈られる“日毎の糧(パン)”のことです。

【パンを水の上に】この大切なパンを水に、というのはどういうことでしょうか。“あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう(11:1)”とまず結論が語られます。2 節もみましょう。“七人と、八人とすら(沢山の兄弟と)、分かち合っておけ。国にどのような災いが起こるか、分かったものではない”とも語ります。空と滅びで満ちているのは国の方なのです。しかし国の富を大切に、従う者は、手にしたパンを、与えられたパンを、分かち与えることが出来ないのです。命を守るのは、分かち合いです。“誠実な友は生命を保つ妙薬(シラ書 6:16)”なのです。主にあってそうです。

週報

2012年 1月 22日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042